

職工ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ

本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者

ナキトキハ休業扶助料ハ債金百分ノ

二十トス

第七條 職工ノ負傷又ハ疾病治癒シタ

ル時ニ於テ身體障害存スルトキハ工  
業主ハ別表ニ掲ゲル區別ニ依リ障害

扶助料ヲ支給スベシ但シ從來ノ勞務

ニ服スルコト能ハザルトキハ債金百

八十日分(其ノ金額男子ニ在リテハ百

五十圓、女子ニ在リテハ九十圓ニ滿チ  
ザルトキハ夫々百五十圓又ハ九十圓  
ヲ下ルコトヲ得ズ

別表ニ掲ゲル身體障害ニ以上存スル  
トキハ重キ身體障害ノ該當スル等級

ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ

左ニ掲グル場合ニ於テハ前二項ノ規

定ニ依ル等級ヲ左ノ如ク繰リ上グ但

シ其ノ障害扶助料ノ金額ハ各身體障

害ノ該當スル等級ニ依ル障害扶助料

ノ金額ヲ合算シタル額ヲ超スルコト  
ヲ得ズ

一 第十三級以上ノ身體障害二以上

存スルトキ

一級

二 第八級以上ノ身體障害二以上存

スルトキ

二級

三 第五級以上ノ身體障害ニ以上存

スルトキ

三級

別表ニ掲グルモノ以外ノ身體障害ヲ

存スル者ニ付テハ障害ノ程度ニ應ジ

別表ニ掲グル身體障害ニ準ジ障害扶  
助料ヲ支給スベシ

既ニ身體障害ヲ存スル者負傷又ハ疾

病ニ因リ同一部位ニ付障害ノ程度ヲ

加重シタルトキハ其ノ加重セラレタ

ル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額  
ヨリ既ニ存シタル障害ノ該當スル障  
害扶助料ノ金額ヲ差引キタル金額ヲ  
支給スベシ

第八條中「賃金三百六十日分以上」ヲ「賃金



四百日分(其ノ金額男子ニ在リテハ三百  
二十圓、女子ニ在リテハ二百圓ニ滿キザ  
ルトキハ夫々三百二十圓又ハ二百圓)

ニ改ム

第九條中「賃金三十日分(其ノ金額三十圓

ニ滿チサルトキハ三十圓以上ヲ賃金三十日分(其ノ金額三十圓ニ滿チザルトキハ三十圓)ニ改ム

第十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

障害扶助料ハ職工ノ負傷又ハ疾病ノ

治癒後遅滞ナク之ヲ支給スベシ但シ

工業主が引續キ雇傭スル場合ニ於テ

本人ノ承諾アリタルトキハ雇傭期間

内障害扶助料ノ支給ヲ延期スルコト

ヲ得

同條ニ左ノ二項ヲ加フ

遺族扶助料及葬祭料ハ職工ノ死亡後

遅滞ナク之ヲ支給スベシ

工業主地方長官ノ許可ヲ受ケタルト

キハ前二項ノ規定ニ拘ラズ障害扶助

料及遺族扶助料ヲ數回ニ分割シテ支  
給スルコトヲ得

第十四條中「債金五百四十日分以上」ヲ「債

金五百四十日分（其ノ金額男子ニ在リテ

ハ四百三十圓、女子ニ在リテハ二百七十

圓ニ滿チザルトキハ夫々四百三十圓又  
ハ二百七十圓)ニ改ム

第十四條ノ二 工業主豫メ地方長官ノ

許可ヲ受ケタルトキハ工業主及職工

ノ出捐スル共濟組合ノ爲シタル給付

、限度ニ於テ之ニ相當スル本令ノ扶  
助ヲ爲スコトヲ要セズ

地方長官必要ト認ムルトキハ前項ノ

許可ヲ取消スコトヲ得

第十八條中「第七條各號」ヲ「別表」ニ改ム

第二十七條中「第七條第一號第二號」ヲ「別

表第八級以上」ニ改ム

同令ニ左ノ別表ヲ加フ



(別表)

身體障害等級及障害扶助料表

等級	身體障害	障害扶助料
第一級		
一	兩眼ヲ失明シタルモノ	賃金六百日分但
二	咀嚼及言語ノ機能ヲ廢シタルモノ	シ其ノ金額男子
三	精神ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ	ニ在リテハ四百
四	胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ	八十圓女子ニ在
五	半身不隨ト爲リタルモノ	リテハ三百圓ニ
六	兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ	滿チザルトキハ
七	兩上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	夫々四百八十圓
		又ハ三百圓トス

第二級	
八 兩下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタル モノ	
九 兩下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	
一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇ニ以下 ニ減ジタルモノ	債金五百三十日分但 シ其ノ金額男子ニ在 リテハ四百三十圓女子 ニ在リテハ二百七十
二 兩眼ノ視力〇・〇ニ以下ニ減ジタル モノ	圓ニ滿チザルトキハ 夫々四百三十圓又ハ 二百七十圓トス
三 兩上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタル モノ	
四 兩下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタル モノ	

第三級

- 一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇六以下  
 二 減ジタルモノ  
 三 咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ
- 二 咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ
- 三 精神ニ著シキ障害ヲ殘スモノ
- 四 胸腹部臓器ノ機能ニ著シキ障害ヲ  
 殘シ終身勞務ニ服スルコト能ハザ  
 ルモノ
- 五 十指ヲ失ヒタルモノ

債金四百七十日分  
 但シ其ノ金額男  
 子ニ在リテハ三  
 百八十圓、女子ニ  
 在リテハ二百四  
 十圓ニ滿チザル  
 トキハ夫々三百  
 八十圓又ハ二百  
 四十圓トス

第四級

- 一 兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタル  
 モノ
- 二 咀嚼及言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ

債金四百十日分  
 但シ其ノ金額男  
 子ニ在リテハ三

第五級	残スモノ	百三十圓、女子ニ
	三 鼓膜、全部ノ缺损其ノ他ニ因リ兩 耳ヲ全ク聾シタルモノ	在リテハ二百十
四 一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタル モノ	圓ニ滿チザルト	
五 一下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタル モノ	キハ夫々三百三	
六 十指ノ用ヲ廢シタルモノ	十圓又ハ二百十	
七 兩足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失 ヒタルモノ	圓トス	
一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・一以下ニ 減ジタルモノ	債金三百五十日分	
	但シ其ノ金額男	

第六級

	<p>二 一上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ</p> <p>三 一下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ</p> <p>四 一上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ</p> <p>五 一下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ</p> <p>六 十趾ヲ失ヒタルモノ</p>	<p>子ニ在リテハ二百八十圓、女子ニ在リテハ百八十圓ニ滿チザルトキハ夫々二百八十圓又ハ百八十圓トス</p>
<p>一 兩眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ</p> <p>二 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ</p> <p>三 鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ</p>		<p>賃金三百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百四十圓、女子ニ在リテハ百五十圓</p>

第七級	一	一 一眼失明シ他眼ノ視力0.6以下ニ減ジタルモノ	二 満チザルトキ
		二 借金二百五十日分但シ其ノ金額	
		四 脊柱ニ著シキ畸形又ハ運動障害ヲ残スモノ	ハ夫々二百四十圓又ハ百五十圓トス
		五 一上肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ	
		六 一下肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ	
		七 一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セ四指ヲ失ヒタルモノ	

二 鼓膜ノ中等度ノ缺損其ノ他ニ因リ  
兩耳ノ聽力四十糎以上ニテハ尋常  
ノ話聲ヲ解シ得ザルモノ

三 精神ニ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ  
外服スルコトヲ得ザルモノ

四 胸腹部臟器ノ機能ニ障害ヲ殘シ輕  
易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得ザ  
ルモノ

五 一手ノ拇指及示指ヲ失ヒタルモノ  
又ハ拇指若ハ示指ヲ併セ三指以上  
ヲ失ヒタルモノ

六 一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セ  
四指ノ用ヲ廢シタルモノ

男子ニ在リテハ  
二百圓 女子ニ在  
リテハ百二十五  
圓ニ滿子ザルト  
キハ夫々二百圓  
又ハ百二十五圓  
トス

	<p>七 一足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ</p> <p>八 十趾ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>九 女子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ殘スモノ</p> <p>十 兩側ノ聾丸ヲ失ヒタルモノ</p>	
<p>第八級</p>	<p>一 一眼ヲ失明シ又ハ一眼ノ視力〇・〇ニ以下ニ減ジタルモノ</p> <p>二 頸部ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ</p> <p>三 神経系統ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得ザルモノ</p>	<p>賃金二百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ百六十圓女子ニ在リテハ百圓ニ滿チザルトキハ夫々</p>



四 一手ノ拇指ヲ併セ二指ヲ失ヒタル  
モノ

五 一手ノ拇指及示指又ハ拇指若ハ示  
指ヲ併セ三指以上ノ用ヲ廢シタル  
モノ

六 一下肢ヲ五糎以上短縮シタルモノ

七 一上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用  
ヲ廢シタルモノ

八 一下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用  
ヲ廢シタルモノ

九 一上肢ニ假關節ヲ殘スモノ

十 一下肢ニ假關節ヲ殘スモノ

十一 一足ノ五趾ヲ失ヒタルモノ

百六十圓又ハ百  
圓トス

第九級

- 一 兩眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモ
- 二 一眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモ
- 三 兩眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野變  
狀ヲ殘スモノ
- 四 兩眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモ
- 五 鼻ヲ缺損シ其ノ機能ニ著シキ障害  
ヲ殘スモノ
- 六 咀嚼及言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモ
- 七 鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ一

賃金百五十日分  
但シ其ノ金額男  
子ニ在リテハ百  
二十圓、女子ニ在  
リテハ七十五圓  
ニ滿チザルトキ  
ハ夫々百二十圓  
又ハ七十五圓ト  
ス

第十級

耳ヲ全ク聾シタルモノ

八

一手ノ拇指ヲ失ヒタルモノ、示指ヲ

併セ二指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指

及示指以外ノ三指ヲ失ヒタルモノ

九

一手ノ拇指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シ

タルモノ

十

一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ヲ失

ヒタルモノ

十一

一足ノ五趾ノ用ヲ廢シタルモノ

一 一眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ

二 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ障害ヲ殘ス

債金百二十日分

但シ其ノ金額男

子ニ在リテ八九

モノ

三 十四齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ

四 鼓膜ノ大部分、缺損其ノ他ニ因リ一耳ノ聽力耳殼ニ接セザレバ大聲ヲ解シ得ザルモノ

五 一手ノ示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ二指ヲ失ヒタルモノ

六 一手ノ拇指ノ用ヲ廢シタルモノ、示指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ノ用ヲ廢シタルモノ

十五圓、女子ニ在リテハ六十圓ニ滿チザルトキハ夫々九十五圓又ハ六十圓トス

第十一級

七 一下肢ヲ三糎以上短縮シタルモノ  
八 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ

一 兩眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ残スモノ

二 兩眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ残スモノ

三 一眼ノ眼瞼ニ著シキ缺损ヲ残スモノ

四 鼓膜ノ中等度ノ缺损其ノ他ニ因リ一耳ノ聽力四十糎以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得ザルモノ

賃金九十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ七十圓女子ニ在リテハ四十五圓ニ滿チザルトキハ夫々七十圓又ハ四十五圓トス

	<p>五 脊柱ニ畸形ヲ残スモノ</p> <p>六 一手ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモノ</p> <p>七 一手ノ示指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ二指ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>八 一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ノ用ヲ廢シタルモノ</p>	
<p>第十二級</p>	<p>一 一眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ残スモノ</p> <p>二 一眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ残スモノ</p>	<p>賃金六十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ五十圓、女子ニ在リテ</p>

三 七齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ

四 一耳ノ耳殼ノ大部分ヲ缺損シタルモノ

五 鎖骨胸骨肋骨肩胛骨又ハ骨盤骨ニ著シキ畸形ヲ殘スモノ

六 一上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ

七 一下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ

八 長管骨ニ畸形ヲ殘スモノ

九 一手ノ中指又ハ環指ノ用ヲ廢シタルモノ

ハ三十圓ニ滿チザルトキハ夫カ五十圓又ハ三十圓トス

	<p>十一 一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ、第二趾ヲ併セニ趾ヲ失ヒタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ</p> <p>十一 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>十二 局部ニ頑固ナル神經症狀ヲ殘スモノ</p> <p>十三 男子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ殘スモノ</p> <p>十四 女子ノ外貌ニ醜狀ヲ殘スモノ</p>	
<p>第十三級</p>	<p>一 一眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ</p>	<p>債金四十日分但シ其ノ金額男子</p>



- 二 一眼ニ半盲症、視野狭窄又ハ視野變  
 狀ヲ残スモノ
- 三 两眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ残シ又  
 ハ睫毛禿ヲ残スモノ
- 四 一手ノ小指ヲ失ヒタルモノ
- 五 一手ノ拇指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタ  
 ルモノ
- 六 一手ノ示指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタ  
 ルモノ
- 七 一手ノ示指ノ末關節ニ屈伸不能ヲ  
 來シタルモノ
- 八 一下肢ヲ一纏以上短縮シタルモノ
- 九 一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾

ニ在リテハ三十  
 圓、女子ニ在リテ  
 ハ二十圓ニ滿チ  
 ザルトキハ夫々  
 三十圓又ハ二十  
 圓トス

	<p>ヲ失ヒタルモノ  十一足ノ第二趾ノ用ヲ廢シタルモノ、  第二趾ヲ併セ二趾ノ用ヲ廢シタル  モノ又ハ第三趾以下ノ三趾ノ用ヲ  廢シタルモノ</p>
<p>第十四級</p>	<p>一 一眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ殘シ又  ハ睫毛禿ヲ殘スモノ  二 三齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタ  ルモノ  三 上肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ  殘スモノ  四 下肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ</p>
	<p>債金二十日分但  シ其ノ金額男子  ニ在リテハ十五  圓女子ニ在リテ  ハ十圓ニ滿チザ  ルトキハ夫々十  五圓又ハ十圓ト</p>

備考

一 視力ノ測定ハ萬國式試視力表ニ依ル屈折異狀アルモノ

残スモノ	五 一手ノ小指ノ用ヲ廢シタルモノ
	六 一手ノ拇指及示指以外ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ
	七 一手ノ拇指及示指以外ノ指ノ末關節ニ屈伸不能ヲ來シタルモノ
	八 一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ
	九 局部ニ神經症狀ヲ殘スモノ
	十 男子ノ外貌ニ醜狀ヲ殘スモノ
	ス

ニ付テハ矯正視力ニ付測定ス

二 指ヲ失ヒタルモノトハ拇指ハ指關節、其ノ他ノ指ハ第一指關節以上ヲ失ヒタルモノヲ謂フ

三 指ノ用ヲ廢シタルモノトハ指ノ末節ノ半以上ヲ失ヒ又ハ掌指關節若ハ第一指關節(拇指ニ在リテハ指關節)ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ

四 趾ヲ失ヒタルモノトハ其ノ全部ヲ失ヒタルモノヲ謂フ

五 趾ノ用ヲ廢シタルモノトハ第一趾ハ末節ノ半以上、其ノ他ノ趾ハ末關節以上ヲ失ヒタルモノ又ハ蹠趾關節若ハ第一趾關節(第一趾ニ在リテハ趾關節)ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ

附則

本令ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前支給事由ヲ生ジタル扶助ニ付テハ仍従前ノ規定ニ依ル

本令施行ノ際現ニ休業扶助料ヲ受クル  
者本令施行後引續キ休業扶助料ヲ受ク  
ルトキハ本令施行後ハ本令ノ規定ニ依  
リ之ヲ扶助スベシ本令施行前ニ扶助ヲ  
受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病ガ本令

施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同

シ

内甲一九〇 御覽濟内閣へ御下付

昭和十一年  
十月五日御存

昭和十一年十月九日

内閣書記官長



内閣書記官



内閣總理大臣 齋藤

法制局長官



外務大臣

齋藤

陸軍大臣

齋藤

文部大臣

齋藤

逓信大臣

齋藤

内務大臣

齋藤

海軍大臣

齋藤

農林大臣

齋藤

鐵道大臣

齋藤

大藏大臣

齋藤

司法大臣

齋藤

商工大臣

齋藤

拓務大臣

齋藤

別紙内務大臣請議工場法施行令中  
改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ



通閣議決定セラレ可然ト認ム

追テ本件ハ罰則ノ規定ナル勅令ヲ以テ樞密院ニ御諮詢相成可然ト認ム

勅令案

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ工場法施行令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

年 月 日

内閣總理大臣

內務大臣

呈案附箋一通

臣  
司

ノルノデアリマスカラシテ、其ノヲ以テ  
云々ノ點  
ヲ見マシ

ケテ置イタコトモアリマス、ソレガ爲ニ輪  
ルノデアリマス、其中ニ主トシテ輸出組合  
一關官及之ニ文キ...

此ノ件關係主任官社會局書記官  
八月廿三日

中野善敦  
社會局



發勞第七六號

工場法施行令中改正勅令案閣議稟請ノ件

工場法施行令中改正ノ必要有之候條別紙勅令案ノ通制定相成度

右閣議ヲ請フ

昭和十一年八月二十九日

内務大臣 潮 惠之



内閣總理大臣 廣田弘毅 殿

内甲一九〇

勅令第 號

工場法施行令中左ノ通改正ス

第六條中「賃金百分ノ六十以上」ヲ「賃金百分ノ六十」ニ改メ同條但書ヲ削ル

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

職工ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキトキハ休業扶助料ハ賃金百分ノ二十トス

第七條 職工ノ負傷又ハ疾病治癒シタル時ニ於テ身體障害存スルトキハ工業主ハ別表ニ掲グル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ但シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ賃金百八十日分（其ノ

金額男子ニ在リテハ百五十圓、女子ニ在リテハ九十圓ニ滿チザル  
トキハ夫々百五十圓又ハ九十圓ヲ下ルコトヲ得ズ

別表ニ掲グル身體障害ニ以上存スルトキハ重キ身體障害ノ該當ス  
ル等級ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ

左ニ掲グル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル等級ヲ左ノ如ク繰リ  
上グ但シ其ノ障害扶助料ノ金額ハ各身體障害ノ該當スル等級ニ依  
ル障害扶助料ノ金額ヲ合算シタル額ヲ超ユルコトヲ得ズ

一 第十三級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 一級

二 第八級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 二級

三 第五級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 三級

別表ニ掲グルモノ以外ノ身體障害ヲ存スル者ニ付テハ障害ノ程度ニ應ジ別表ニ掲グル身體障害ニ準ジ障害扶助料ヲ支給スベシ

既ニ身體障害ヲ存スル者負傷又ハ疾病ニ因リ同一部位ニ付障害ノ程度ヲ加重シタルトキハ其ノ加重セラレタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヨリ既ニ存シタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヲ差引キタル金額ヲ支給スベシ

第八條中「賃金三百六十日分以上」ヲ「賃金四百日分（其ノ金額男子ニ在リテハ三百二十圓、女子ニ在リテハ二百圓ニ滿チザルトキハ夫々三百二十圓又ハ二百圓）」ニ改ム

第九條中「賃金三十日分（其ノ金額三十圓ニ滿チサルトキハ三十圓）」

以上「賃金三十日分（其ノ金額三十圓ニ滿チザルトキハ三十圓）  
」ニ改ム

第十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

障害扶助料ハ職工ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滞ナク之ヲ支給スベシ但シ工業主ガ引續キ雇傭スル場合ニ於テ本人ノ承諾アリタルトキハ雇傭期間内障害扶助料ノ支給ヲ延期スルコトヲ得

同條ニ左ノ二項ヲ加フ

遺族扶助料及葬祭料ハ職工ノ死亡後遲滞ナク之ヲ支給スベシ

工業主地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ障害扶助料及遺族扶助料ヲ數回ニ分割シテ支給スルコトヲ得

第十四條中「賃金五百四十日分以上」ヲ「賃金五百四十日分（其ノ金額男子ニ在リテハ四百三十圓、女子ニ在リテハ二百七十圓ニ滿チザルトキハ夫々四百三十圓又ハ二百七十圓）」ニ改ム

第十四條ノ二 工業主豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ工業主及職工ノ出捐スル共濟組合ノ爲シタル給付ノ限度ニ於テ之ニ相當スル本令ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セズ

地方長官必要ト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十八條中「第七條各號」ヲ「別表」ニ改ム

第二十七條中「第七條第一號第二號」ヲ「別表第八級以上」ニ改ム

同令ニ左ノ別表ヲ加フ



身體障害等級及障害扶助料表

等級	身體障害	障害扶助料
第一級	<p>一 兩眼ヲ失明シタルモノ</p> <p>二 咀嚼及言語ノ機能ヲ廢シタルモノ</p> <p>三 精神ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ</p> <p>四 胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ</p> <p>五 半身不隨ト爲リタルモノ</p> <p>六 兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ</p> <p>七 兩上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ</p> <p>八 兩下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ</p>	<p>賃金六百日分但シ、其ノ金額男子ニ在リテハ四百八十圓、女子ニ在リテハ三百圓ニ滿チザルトキハ夫々四百八十圓又ハ三百圓トス</p>

<p>九</p>	<p>第二級</p> <p>一</p> <p>二</p> <p>三</p> <p>四</p>	<p>第三級</p> <p>一</p> <p>二</p> <p>三</p>
<p>兩下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ</p>	<p>一眼失明シ他眼ノ視力〇、〇ニ以下ニ減ジタルモノ</p> <p>兩眼ノ視力〇、〇ニ以下ニ減ジタルモノ</p> <p>兩上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ</p> <p>兩下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ</p>	<p>一眼失明シ他眼ノ視力〇、〇六以下ニ減ジタルモノ</p> <p>咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ</p> <p>精神ニ著シキ障害ヲ殘スモノ</p>
<p>賃金五百三十日分 但シ其ノ金額男子ニ在リテハ四百三十圓、女子ニ在リテハ二百七十圓ニ滿チザルトキハ夫々</p>	<p>賃金四百七十日分 但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三百八十圓、女子ニ在リテハ二百四十圓ニ滿チザルトキハ夫々</p>	<p>賃金四百七十日分 但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三百八十圓、女子ニ在リテハ二百四十圓ニ滿チザルトキハ夫々</p>

第四級

四 五

胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ  
殘シ終身勞務ニ服スルコト能ハザ  
ルモノ  
十指ヲ失ヒタルモノ

三百八十圓又ハ二  
百四十圓トス

一 二 三 四 五 六

兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタル  
モノ  
咀嚼及言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ  
殘スモノ  
鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ兩  
耳ヲ全ク聾シタルモノ  
一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタル  
モノ  
一下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタル  
モノ  
十指ノ用ヲ廢シタルモノ

賃金四百十日分  
シ其ノ金額男子ニ  
在リテハ三百三十  
圓、女子ニ在リテ  
ハ二百十圓ニ滿チ  
ザルトキハ夫々三  
百三十圓又ハ二百  
十圓トス

<p>第七</p>	<p>第五級</p> <p>一 二 三 四 五 六</p>	<p>第六級</p> <p>一 二</p>
<p>兩足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ</p>	<p>一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ</p> <p>一 上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ</p> <p>一 下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ</p> <p>一 上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ</p> <p>一 下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ</p> <p>十趾ヲ失ヒタルモノ</p>	<p>ノ 兩眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ</p> <p>咀嚼又ハ言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ</p>
<p>賃金三百五十日分</p> <p>但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百八十圓、女子ニ在リテハ百八十圓ニ滿チザルトキハ夫々二百八十圓又ハ百八十圓トス</p>	<p>賃金三百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百四十</p>	<p>賃金三百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百四十</p>

第七級

一	二	七	六	五	四	三
<p>一眼失明シ他眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ</p> <p>鼓膜ノ中等度ノ缺损其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力四十糧以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得ザルモノ</p>	<p>賃金二百五十日分</p> <p>其ノ金額男子ニ在リテハ二百圓、女子ニ在リテハ百二十五圓ニ滿チザ</p>	<p>一手指ノ五指又ハ拇指及一示指ヲ併セ四指ヲ失ヒタルモノ</p>	<p>一下肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ</p>	<p>一上肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ</p>	<p>脊柱ニ著シキ畸形又ハ運動障害ヲ殘スモノ</p>	<p>鼓膜ノ大部分ノ缺损其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力耳殼ニ接セザレバ大聲ヲ解シ得ザルモノ</p>
<p>圓、女子ニ在リテハ百五十圓ニ滿チザルトキハ夫々二百四十圓又ハ百五十圓トス</p>						

三 四 五 六 七 八 九 十

精神ニ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ  
外服スルコトヲ得ザルモノ

ルトキハ夫々二百  
圓又ハ百二十五圓  
トス

胸腹部臟器ノ機能ニ障害ヲ殘シ輕  
易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得ザ  
ルモノ

一手ノ拇指及示指ヲ失ヒタルモノ  
又ハ拇指若ハ示指ヲ併セ三指以上  
ヲ失ヒタルモノ

一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セ  
四指ノ用ヲ廢シタルモノ

一足ヲ「リスフラン」關節以上ニ  
テ失ヒタルモノ

十趾ノ用ヲ廢シタルモノ

女子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ殘スモ  
ノ

兩側ノ辜丸ヲ失ヒタルモノ

第八級

一 二 三 四 五 六 七 八

一 眼ヲ失明シ又ハ一眼ノ視力〇、〇  
 二 以下ニ減ジタルモノ

頸部ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ

神經系統ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘  
 シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ  
 得ザルモノ

一手ノ拇指ヲ併セ二指ヲ失ヒタル  
 モノ

一手ノ拇指及示指又ハ拇指若ハ示  
 指ヲ併セ三指以上ノ用ヲ廢シタル  
 モノ

一下肢ヲ五糎以上短縮シタルモノ

一 上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用  
 ヲ廢シタルモノ

一 下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用  
 ヲ廢シタルモノ

賃金二百日分但シ  
 、其ノ金額男子ニ

在リテハ百六十圓、

女子ニ在リテハ百

圓ニ滿チザルトキ

ハ夫々百六十圓又

ハ百圓トス

第九級 一

十一 十 九

六 五 四 三 二 一

一 上肢ニ假關節ヲ殘スモノ  
 一 下肢ニ假關節ヲ殘スモノ  
 一 足ノ五趾ヲ失ヒタルモノ

ノ 兩眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ

一 一眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ

ノ 兩眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野變狀ヲ殘スモノ

ノ 兩眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ

ノ 鼻ヲ缺損シ其ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ

ノ 咀嚼及言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ

賃金百五十日分但シ其ノ金額男子ニ

在リテハ百二十圓、

女子ニ在リテハ七

十五圓ニ滿チザル

トキハ夫々百二十

圓又ハ七十五圓ト

ス



第十級

三

二

一

十一

十

九

八

七

鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ一  
耳ヲ全ク聾シタルモノ

一手ノ拇指ヲ失ヒタルモノ、示指  
ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇  
指及示指以外ノ三指ヲ失ヒタルモ  
ノ

一手ノ拇指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シ  
タルモノ

一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ヲ失  
ヒタルモノ

一足ノ五趾ノ用ヲ廢シタルモノ

一眼ノ視力〇・二以下ニ減ジタルモ  
ノ

咀嚼又ハ言語ノ機能ニ障害ヲ殘ス  
モノ

十四齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘ  
タルモノ

賃金百二十日分但  
シ其ノ金額男子ニ

在リテハ九十五圓、

女子ニ在リテハ六

十圓ニ滿チザルト

第十一級

二	一	八	七	六	五	四
<p>兩眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ</p>	<p>兩眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ</p>	<p>一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ</p>	<p>一下肢ヲ三糎以上短縮シタルモノ</p>	<p>一手ノ拇指ノ用ヲ廢シタルモノ、示指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ノ用ヲ廢シタルモノ</p>	<p>一手ノ示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ二指ヲ失ヒタルモノ</p>	<p>鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ノ聽力耳殼ニ接セザレバ大聲ヲ解シ得ザルモノ</p>
<p>在リテハ七十圓</p>	<p>賃金九十日分但シ、其ノ金額男子ニ</p>					<p>キハ夫々九十五圓又ハ六十圓トス</p>

第十二級

第十二級	
<p>一 一眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害 又ハ運動障害ヲ残スモノ</p> <p>二 一眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ残</p>	<p>三 一眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ残スモノ</p> <p>四 鼓膜ノ中等度ノ缺損其ノ他ニ因リ 一耳ノ聽力四十糧以上ニテハ尋常 ノ話聲ヲ解シ得ザルモノ</p> <p>五 脊柱ニ畸形ヲ残スモノ</p> <p>六 一手ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモノ</p> <p>七 一手ノ示指ノ用ヲ廢シタルモノ又 ハ拇指及示指以外ノ二指ノ用ヲ廢 シタルモノ</p> <p>八 一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ノ用 ヲ廢シタルモノ</p>
<p>賃金六十日分但シ 其ノ金額男子ニ 在リテハ五十圓</p>	<p>女子ニ在リテハ四 十五圓ニ滿チザル トキハ夫々七十圓 又ハ四十五圓トス</p>

二 三 四 五 六 七 八 九 十

スモノ

七齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ

一耳ノ耳殼ノ大部分ヲ缺損シタルモノ

鎖骨、胸骨、肋骨、肩胛骨又ハ骨盤骨ニ著シキ畸形ヲ殘スモノ

一上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ

一下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ

長管骨ニ畸形ヲ殘スモノ

一手ノ中指又ハ環指ノ用ヲ廢シタルモノ

一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ、第三趾ヲ併セ二趾ヲ失ヒタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ

女子ニ在リテハ三十圓ニ滿チザルトキハ夫々五十圓又ハ三十圓トス

第十三級

十一 十二 十三 十四 一 二 三 四 五

一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ

局部ニ頑固ナル神經症狀ヲ殘スモノ

男子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ殘スモノ

女子ノ外貌ニ醜狀ヲ殘スモノ

一眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ

一眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野變狀ヲ殘スモノ

兩眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ殘シ又ハ睫毛禿ヲ殘スモノ

一手ノ小指ヲ失ヒタルモノ

一手ノ拇指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタ

賃金四十日分但シ

其ノ金額男子ニ

在リテハ三十圓、

女子ニ在リテハ二

十圓ニ滿チザルト

キハ夫々三十圓又

ハ二十圓トス

第十四級

一	二	十	九	八	七	六
<p>一眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ殘シ又ハ睫毛先ヲ殘スモノ            三齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ</p>	<p>一足ノ第二趾ノ用ヲ廢シタルモノ            第二趾ヲ併セ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ノ用ヲ廢シタルモノ</p>	<p>一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ</p>	<p>一下肢ヲ一糧以上短縮シタルモノ</p>	<p>一手ノ示指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ            一手ノ示指ノ末關節ニ屈伸不能ヲ來シタルモノ</p>	<p>ルモノ</p>	<p>ルモノ</p>
<p>賃金二十日分但シ、其ノ金額男子ニ在リテハ十五圓、</p>						

三 四 五 六 七 八 九 十

上肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ残スモノ

下肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ残スモノ

一手ノ小指ノ用ヲ廢シタルモノ

一手ノ拇指及示指以外ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ

一手ノ拇指及示指以外ノ指ノ末關節ニ屈伸不能ヲ來シタルモノ

一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ

局部ニ神經症狀ヲ残スモノ

男子ノ外貌ニ醜狀ヲ残スモノ

女子ニ在リテハ十

圓ニ滿チザルトキ

ハ夫々十五圓又ハ

十圓トス

備考

一 視力ノ測定ハ萬國式試視力表ニ依ル屈折異狀アルモノニ付テハ矯正視力ニ付測定ス

二 指ヲ失ヒタルモノトハ拇指ハ指關節、其ノ他ノ指ハ第一指關節以上ヲ失ヒタルモノヲ謂フ

三 指ノ用ヲ廢シタルモノトハ指ノ末節ノ半以上ヲ失ヒ又ハ掌指關節若ハ第一指關節(拇指ニ在リテハ指關節)ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ

四 趾ヲ失ヒタルモノトハ其ノ全部ヲ失ヒタルモノヲ謂フ

五 趾ノ用ヲ廢シタルモノトハ第一趾ハ末節ノ半以上、其ノ他ノ趾ハ末關節以上ヲ失ヒタルモノ又ハ蹠趾關節若ハ第一趾關節(第一趾ニ在リテハ趾關節)ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ

三 趾ノ用ヲ廢シタルモノトハ第一趾ハ末節ノ半以上、其ノ他ノ趾ハ末關節以上ヲ失ヒタルモノ又ハ蹠趾關節若ハ第一趾關節(第一趾ニ在リテハ趾關節)ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ



附則

本令ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前支給事由ヲ生ジタル扶助ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

本令施行ノ際現ニ休業扶助料ヲ受クル者本令施行後引續キ休業扶助

料ヲ受クルトキハ本令施行後ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ扶助スベシ本

令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病ガ本令施行後再發

シテ扶助ヲ受クルトキ亦同ジ

理由書

職工扶助ノ要ハ災害ヲ蒙リタル職工及其ノ遺族ノ救済ニ在リ然ル  
ニ現行規定ハ之カ救済ニ十分ナル扶助料ヲ支給セサルノ憾アリ依  
テ扶助料ノ増額ヲ圖ルト共ニ之カ支給方法ノ整備ヲ爲サントスル

ノ要アルニ由ル

豫算委員 堀内 良平君 (小山谷藏君  
補闕)  
二十四日特別委員理事補闕選舉ノ結果  
如シ

宮崎 一君  
松本 弘君  
岩崎幸治郎君  
西岡竹次郎君  
藤井 達二君  
小林 錦君  
久山 知之君  
馬場 元治君

前二科中共同法第(政府提出)委員  
辭任菊池長右衛門君 補闕玉置吉之丞君  
辭任田中 彌助君 補闕倉元 要一君  
辭任高橋 泰雄君 補闕芦田 均君  
辭任中野 治介君 補闕木村作次郎君

外二科委員  
辭任池本甚四郎君 補闕川橋豐治郎君  
大正十二年法律第五十二號中改正法律案  
(政府提出、貴族院送付)委員  
辭任八並 武治君 補闕松井 郡治君

社 會 局

# 説 明 書

職工扶助ノ要ハ災害ヲ蒙リタル職工及其ノ遺族ノ救濟ニ在リ然ル  
ニ現行規定ハ之ガ救濟ニ十分ナル扶助料ヲ支給セサルノ憾アリ依  
テ扶助料ノ増額ヲ圖ルト共ニ之カ支給方法ノ整備ヲ爲サントス是  
本案ヲ提出スル所以ニシテ改正ノ要綱左ノ如シ

一、休業扶助料ニ付休業百八十日ヲ超ユルモ休業扶助料ハ一日ニ  
付賃金百分ノ六十トシ獨身者ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ  
ハ之ヲ減額スルコト

二、障害扶助料ニ付現行規定ハ障害ノ程度ヲ抽象的ニ四級ニ區分  
セルヲ具體的ニ二十四級ニ細別シ扶助料算定ノ規定ヲ整フルト

官ヘルノゴザイマス、彼等ハ言ヲ託シ  
農村アルニアラザレバ國民ハ立タスト言  
マスケレド、米ハ朝鮮デ作ルコトガ出  
レノゴザイマス、

言ハレタ、一利ヲ起スハ一害ヲ除クニ如カ  
ズト言ハレタ此ノ言ハ諸君ニ必要ノ一ツノ  
言デハナカラウカト私ハ感フ、ヘボ醫者ハ

制ノ爲メデハナカラウカト思フノデアリマ  
ス、故ニ此自由ト統制上ニ立ッテ居ル太陽ハ  
何デアルカ下言ヘバ「オード」ニシテ、秩

ヲ取合セテ行クト云フ現狀デハ、一人英傑  
ガ起リタラバガラリト變ッテシマフ、斯ウ  
云フ世ノ中デハ駄目タ、據リ所ノアル標準

社 會 局

共ニ重キ障害ヲ残ス者ニ對スル<sup>ル</sup>扶助料ヲ増額スルコト

三、遺族扶助料ヲ増額スル<sup>ル</sup>共ニ受給者ノ順位ニ一<sup>部</sup>修正ヲ加

申打切扶助料ニ於ケル扶助打切期間ハ從來三年ナルキ特別ノ事

情<sup>ノ</sup>場合<sup>ハ</sup>一年迄ニ短縮<sup>シ</sup>得<sup>ル</sup>ニ<sup>ス</sup>ル

四、障害扶助料、遺族扶助料及打切扶助料ニ付最低金額ノ保障ヲ  
設クルコト

五、事業主及労働者ノ出捐スル共済組合ノ爲シタル給付ヲ認ムル  
コト

# 参照

## ●工場法施行令

大正五年八月三日  
勅令四百九十三號

改正 大正一一年第四七一號、一五年第一

五三號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ工場法施行令ヲ裁可  
シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理大臣署名)

工場法施行令

### 第一章 通則

第一條 左ニ掲ケル事業ノミヲ管ム工場ニ付  
テハ工場法ノ適用ヲ除外ス但シ内務大臣ノ  
定ムル原動機ヲ用フルモノハ此ノ限ニ在ラ  
ズ

一 寒天、凍蕪、凍豆腐、湯葉、麵類又ハ穀  
ノ製造

二 行李、籠、和傘骨其ノ他ノ杞柳、籐、  
竹、竹ノ皮、細木、藁、藁又ハ藁ノ手工品  
ノ製造

三 經木眞田又ハ麥稈眞田ノ編製

四 「アマシ」、「バナマ」又ハ之ニ類スルモ  
ノチ以テスル帽子其ノ他ノモノノ編製

五 扇子、團扇、和傘又ハ提燈ノ製造

六 紙、絲、棉、竹又ハ布帛ヲ主タル材料トス  
ル玩具又ハ造花ノ製造

七 形紙、紙函、元結又ハ水引ノ製造

八 手工ニ依ル被服、足袋其ノ他ノ布帛類  
ノ裁縫

九 手工ニ依ル組紐ノ編製  
一〇 刺繡、「レース」、「パチンレース」又ハ  
「ドロインウオーク」ノ業

第二條 鑛業法ノ適用ヲ受ケル工場ニ付テハ  
工場法ノ適用ヲ除外ス

第三條 左ニ掲ケル事業ヲ管ム工場ハ工場法  
第一條第一項第二號ニ該當スルモノトス

一 毒劇物又ハ毒劇藥ノ製造





- 一七 溶劑ヲ用フル油脂ノ採取
- 一八 溶劑ヲ用フル芳香油ノ製造
- 一九 溶劑ヲ用フル野草建ノ採集
- 二〇 溶劑ヲ用フル模造眞珠ノ製造
- 二一 溶劑ヲ用フル「ドライクリートニンガ」(厚ニ拂拭スルモノヲ除ク)
- 二二 溶劑ヲ用フル純劍膏ノ製造
- 二三 「タシニン」酸ノ製造
- 二四 合成染料又ハ其ノ中間物ノ製造
- 二五 「セルロイド」ノ製造、加熱加工又ハ機械ヲ用フル加工
- 二六 硝化綿ノ製造
- 二七 「コロザウム」ヲ用フル紙摺製品ノ製造
- 二八 「エーテル」ノ製造
- 二九 酒精ノ製造又ハ變性
- 三〇 「グイスコーズ」ノ製造
- 三一 「テレピン」油ノ蒸溜又ハ精製
- 三二 鐵油ノ蒸溜、精製又ハ燻結
- 三三 「アスファルト」ノ精製
- 三四 瀝質物ヲ用フル建築用「フェルト」又ハ紙ノ製造
- 三五 燐寸ノ製造
- 三六 火藥、燐藥又ハ火工品ノ製造又ハ取扱
- 三七 金屬ノ熔融又ハ精煉
- 三八 電氣又ハ瓦斯ヲ用フル金屬ノ熔接又ハ切斷
- 三九 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造
- 四〇 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ用フル製氷動力ニ依ル製材
- 四一 電氣業(發電所、變電所、蓄電所及開閉所)
- 四二 電氣業(發電所、變電所、蓄電所及開閉所)
- 四三 電球ノ製造
- 四四 硝子ノ製造、腐蝕、砂吹又ハ粉砕
- 四五 金屬、骨、角又ハ貝殼ノ乾燥研磨
- 四六 動力ニ依ル金屬箔又ハ金屬粉ノ製造
- 四七 動力ニ依ル鐵石、土砂、貝又ハ骨ノ粉碎
- 四八 電氣用「カーボン」ノ製造
- 四九 石炭瓦斯又ハ炭炭ノ製造
- 五〇 「カーボナート」ノ製造

- 五一 石灰ノ製造
  - 五二 「フェルト」又ハ吹付羅紗(粉狀纖維ヲ用フル模造羅紗)ノ製造
  - 五三 起毛又ハ反毛ノ作業
  - 五四 製綿
  - 五五 麻ノ梳解
  - 五六 古綿、落綿、古麻、廢紙、廢綿絲、廢毛又ハ廢雜類ノ選別
  - 五七 骨炭又ハ血炭ノ製造
  - 五八 毛皮ノ精製、製革又ハ製膠
  - 五九 毛髮又ハ羽毛ノ精製
  - 六〇 其ノ他内務大臣ノ命令ヲ以テ指定スル事業
- 第二章 職工又ハ其ノ遺族ノ扶助
- 第四條 職工業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ本章ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲スヘシ但シ扶助ヲ受ケヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ工業主ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得
- 前項扶助ノ義務ハ別段ノ定アル場合ヲ除ク外職工ノ解雇ニ因リテ變更セラルルコトナシ
- 第五條 職工負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ工業主ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ
- 第六條 職工療養ノ爲メ勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ工業主ハ職工ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十以上ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ但シ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ支給百八十日ヲ超エタルトキハ其ノ後ノ支給額ヲ一日ニ付賃金百分ノ四十迄ニ減スルコトヲ得
- 第七條 職工ノ負傷又ハ疾病治癒シタル時ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル程度ノ身體障礙ヲ存スルトキハ工業主ハ左ニ掲ケル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スヘシ
- 一 終身自用ヲ辨スルコト能ハサルモノ
  - 二 終身勞務ニ服スルコト能ハサルモノ
  - 三 賃金三百六十日分以上

- 三 從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノ、健康舊ニ復スルコト能ハサルモノ又ハ女子ノ外親ニ殘存シタルモノ
  - 四 身體ヲ傷害シ舊ニ復スルコト能ハスト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ
  - 賃金四十日分以上
- 第七條ノ二 職工重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且工業主其ノ事實ニ付地方長官ノ認定ヲ受ケタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セサルコトヲ得
- 第八條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ賃金三百六十日分以上ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ
- 第九條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金三十日分(其ノ金額三十圓ニ滿チサルトキハ三十圓)以上ノ葬祭料ヲ支給スヘシ
- 第十條 遺族扶助料ヲ受ケヘキ者ハ職工ノ配偶者トシ
- 配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受ケヘキ者ハ職工死亡當時之下同一ノ家ニ在リタル職工ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬トシ其ノ親等相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス
- 第十一條 前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル
- 一 職工ノ家督相續人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス
  - 二 男ハ之ヲ女ヨリ先ニス
  - 三 直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女トシ之ヲ私生子ヨリ先ニス
  - 四 前二號ニ掲ケル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス
- 第十二條 第十條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲ケル者ノ中一人ニ遺族扶助料ヲ支給スヘシ但シ職工ノ遺言又ハ工業

- 主ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲ケル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ
  - 一 職工ノ家督相續人又ハ戸主
  - 二 職工ノ兄弟姉妹ニシテ職工死亡當時之下同一ノ家ニ在リタル者
  - 三 職工死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者
- 第十三條 第五條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スヘシ
- 障害扶助料ハ職工ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滞ナク、遺族扶助料及葬祭料ハ職工ノ死亡後遲滞ナク之ヲ支給スヘシ但シ障害扶助料及遺族扶助料ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ數回ニ分割シテ之ヲ支給スルコトヲ得
- 第十三條ノ二 職工健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受ケヘキトキハ其ノ期間第五條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要セ
- 健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受ケヘキトキ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ
- 職工ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セ
- 健康保險法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ第五條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス
- 第十四條 第五條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受ケル職工療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セサルトキハ工業主ハ賃金五百四十日分以上ノ打切扶助料ヲ支給シ以後本章ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲ササルコトヲ得
- 第十五條 工業主ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本章ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲ササルコトヲ得
- 一 職工ノ解雇後二年ヲ經過シテ扶助ヲ請

求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラズ解雇前ニ又ハ解雇後一年内ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ

二 扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ヲ受ケテ治療シタル負傷又ハ疾病カ職工ノ解雇後ニ於テ再發スルトキ

第十六條 扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

一 職工健康保險法ニ依ル被保險者タル場合ニ於テハ同法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準額ノ日額

二 職工健康保險法ニ依ル被保險者タラサル場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ據ル發病ノ日ヲ除キ、發病ノ日明ナラサルトキハ診斷前七日ヲ除キ、負傷又ハ即死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其ノ前(賃金締切日)アル場合ニ於テハ直前ノ賃金締切日以前(三月間)雇入後三月ニ滿チサルトキハ其ノ期間)ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ス

前項第二號ニ規定スル期間中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル期間アルトキハ其ノ日數及其ノ期間ニ於ケル賃金ハ前項ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲ニ休業シタル期間

二 産前又ハ産後ノ女子内務大臣ノ定ムル所ニ依リ休業シタル期間

三 試ノ雇傭期間

四 工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休業シタル期間

第一項第二號ノ賃金總額ニハ賞與又ハ臨時ニ支給セラルル手當ニシテ内務大臣ノ定ムルモノヲ包含セス

前三項ノ規定ニ依リ扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ扶助規則ニ定ムル所ニ依ル但シ扶助規則ニ定ナキトキハ地方長官之ヲ定ム

第十七條 前條第一項第二號ノ規定ニ依リ賃金ヲ算出スル場合ニ於テ工業主カ食事其ノ他ノ給與ヲ常時支給スルトキハ其ノ價額ハ賃金中ニ之ヲ加算ス但シ休業扶助料ヲ支給スル場合ニ於テ工業主カ食事其ノ他ノ給與ヲ引續キ支給スルトキハ其ノ價額ハ休業扶助料算出ノ標準トスヘキ賃金中ニ之ヲ加算セス

第十八條 地方長官ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ職工ノ負傷、疾病若ハ死亡ノ原因、第七條各號ニ掲ケル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ調停ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ検査セシムルコトヲ得

第十九條 工業主ハ遲滞ナク扶助規則ヲ作成シ扶助ノ金額、手續其ノ他扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ扶助規則ヲ變更シタルトキ亦同シ

地方長官必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十條 官立工場ニ於ケル職工ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規程ニ依ル

第三章 職工ノ雇入及解雇

第二十一條 工業主ハ遲滞ナク職工名簿ヲ調製シ工場毎ニ之ヲ備付クヘシ

職工名簿ニ記載スヘキ事項ニ關シテハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十二條 職工ニ給與スル賃金ハ通貨ヲ以テ毎月一回以上之ヲ支拂フヘシ

第二十三條 工業主ハ職工ノ死亡若ハ解雇ノ場合又ハ内務大臣ノ定ムル場合ニ於テ權利者ノ請求アリタルトキハ遲滞ナク賃金ヲ支拂フヘシ

前項ノ場合ニ於テ積立金、信託金其ノ他何等ノ名義ヲ用キルニ拘ラス職工ノ貯蓄金ハ遲滞ナク之ヲ返還スヘシ

第二十四條 工業主ハ職工ノ雇入ニ關シ前二條ノ規定ニ違反スル契約又ハ工業主ノ受ケヘキ違約金ヲ定メ若ハ損害賠償額ヲ決定スル契約ヲ爲スコトヲ得ズ但シ左ノ事項ニ付テハ方法ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 職工ニ貯蓄ヲ爲サシメ又ハ職工ノ利益ノ爲賃金ノ一部ニ代ヘテ給付付爲スコト

二 職工方雇入契約ニ違反シ其ノ他職工ノ責任ニ歸スヘキ事由ニ因リ解雇セララルル場合ニ於テ職工ノ貯蓄金中工業主ノ給與ニ係ル部分ヲ交付セザルコト

第二十五條 職工ノ貯蓄金ヲ管理スル場合ニ於テハ工業主ハ遅滞ナク確實ナル方法ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 削除

第二十七條 未成年者若ハ女子カ工業主ノ都合ニ依リ解雇セラレ又ハ第五條若ハ第六條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケル職工、業務上ノ負傷若ハ疾病ニ罹リ療養中ノ職工、業務上ノ支拂ヲ受ケル職工若ハ第七條ノ第一號若ハ第二號ノ規定ニ依リ職工ノ解雇セラレタル日ヨリ

第十八條ノ規定ハ前項ノ族費ニ關シ之ヲ準用ス

第二十七條ノ二 工業主職工ニ對シ雇傭契約ヲ解除セムトスルトキハ少クトモ十四日前ニ其ノ豫告ヲ爲スカ又ハ賃金十四日分以上ノ手當ヲ支給スルコトヲ要ス但シ天災事變ニ基キ事業ノ繼續不可能ト爲リタルニ因リ又ハ職工ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ已ムコトヲ得サル場合ニ於テ雇傭契約ヲ解除スルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル豫告期間ノ計算ニ付テハ左ニ掲ケル期間ハ之ヲ算入セス

一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲ニ休業スル期間但シ其ノ期間引續キ二月ヲ超ユルトキハ其ノ後ノ期間ハ此ノ限ニ在ラス

二 産前又ハ産後ノ女子内務大臣ノ定ムル所ニ依リ休業スル期間

三 工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休業スル期間但シ休業中賃金ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ規定ハ試ノ雇傭期間中ノ職工ニ付テハ適用セス但シ雇入後十四日(工業主地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ二十一日)ヲ超ユル職工ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條及第十七條ノ規定ハ第一項ノ賃金ニ、第十八條ノ規定ハ前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條ノ三 職工解雇ノ場合ニ於テ雇傭期間、業務ノ種類及賃金ニ付證明書ヲ請求シタルトキハ工業主ハ遲滞ナク之ヲ交付スヘシ

第二十七條ノ四 常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ遲滞ナク就業規則ヲ作成シ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ就業規則ヲ變更シタルトキ亦同シ

就業規則ニ定ムヘキ事項左ノ如シ

一 始業終業ノ時刻、休憩時間、休日及職工ヲ二組以上三分チ交替ニ就業セシムルトキハ就業時轉換ニ關スル事項

二 賃金支拂ノ方法及時期ニ關スル事項

三 職工ニ食費其ノ他ノ負擔ヲ爲サシムルトキハ之ニ關スル事項

四 制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項

五 解雇ニ關スル事項

地方長官必要ト認ムルトキハ就業規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第四章 徒弟

第二十八條 工場ニ收容スル徒弟ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 一定ノ職業ニ必要ナル知識技能ヲ習得スルノ目的ヲ以テ業務ニ就クコト

二 一定ノ指導者指揮監督ノ下ニ教育ヲ受ケルコト

三 品性ノ修養ニ關シ常時一定ノ監督ヲ受ケルコト

四 地方長官ノ認可ヲ受ケタル規程ニ依リ收容セラルルコト



第二十九條 工業主前條第四號ノ認可ヲ申請スルニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

一 徒弟ノ員數

二 徒弟ノ年齡

三 指導者ノ資格

四 教育ノ事項及期間

五 就業ノ方法及一日ニ於ケル就業ノ時間

六 休日及休憩ニ關スル事項

七 品性修養ニ關スル監督ノ方法

八 給與ノ方法

九 第三十條ノ規定ニ依リ設ケル規程

十 徒弟契約ノ條項

第三十條 徒弟未成年者又ハ女子ナル場合ニ於テハ其ノ就業ニ付十六歳未満ノ者又ハ女子ニ關スル工場法ノ規定ニ準據シテ危險ヲ避ケ及衛生上ノ害ヲ防クノ方法ヲ定ムヘシ

第三十一條 地方長官ハ工業主ニ於テ第二十八條第四號ノ規程ニ遵ハス又ハ徒弟教育ノ目的ヲ完クスルコト能ハスト認ムルトキハ之ヲ矯正スル爲ニ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ第二十八條第四號ノ認可ヲ取消スルコトヲ得

第三十二條 第二十八條ノ條件ヲ具備セザル者ニ對シテハ工業主ニ於テ徒弟ノ名義ヲ用ヘルニ拘ラス職工ニ關スル工場法及本令ノ規定ヲ適用ス第二十八條第四號ノ認可ヲ取消サレタルトキ從來ノ徒弟ニ付亦同シ

第五章 罰則

第三十三條 工業主シテ不正ニ扶助義務、賃金支拂ノ義務、職工ノ貯蓄金返還ノ義務若ハ第二十七條第一項ノ規定ニ依ル義務ノ全部若ハ一部ヲ免レシメタル者又ハ第二十七條ノ規定ニ違反シテ雇傭契約ヲ解除セシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ其ノ者ノ所爲ニ付工場法第二十二條ノ規定ニ依リ工業主又ハ之ニ代ル者ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 削除

第三十五條 削除

第三十六條 削除

附則

第三十七條 本令ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十八條 第二十四條ノ規定ハ本令施行後一年間本令施行前ノ契約ニ之ヲ適用セス

賃金ノ支拂期ニ關シ第二十二條ノ規定ニ異ル慣習アルトキハ工業主ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ本令施行後三年內其ノ慣習ニ依リ支拂期ヲ延長セサル限度ニ於テ支拂期ヲ定ムルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 本令施行ノ際工場法ノ適用ヲ受ケル工場ノ工業主ハ本令施行ノ日ヨリ四月內ハ第十九條、第二十一條、第二十二條、第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

本令施行ノ際職工ノ貯蓄金ヲ管理シ又ハ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭シ若ハ徒弟トシテ收容スル工業主前項ノ期間內ニ第二十五條、第二十六條又ハ第三十條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ申請シタルトキハ之ニ對スル行政處分アル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第四十條 現行ノ命令ハ工場法又ハ本令ニ牴觸セザル限リ本令施行ノ爲メ其ノ效力ヲ妨ケラレルコトナシ

第四十一條 本令ニ定ムルモノノ外主務大臣及地方長官ハ職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締其ノ他本令施行ノ爲ニ必要ナル事項ニ關シ命令ヲ發スルコトヲ得

第四十二條 本令中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

附則(大正十五年勅令第五百三十三號)

第一條 本令ハ大正十二年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 從前ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケル者本令施行後引續キ扶助ヲ受ケルトキハ本令施行後ハ本令ニ依リ之ヲ扶助スヘシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助ヲ受ケルトキ亦同シ

第三條 本令施行ノ際大正十二年法律第三十三號又ハ本令ノ規定ニ依リ新ニ工場法ノ適用ヲ受ケル工場ノ工業主カ本令施行前ニ爲

シタル契約ニ付テハ第二十四條ノ規定ハ本令施行後一年間之ヲ適用セス

前項ノ工業主ハ賃金ノ支拂期ニ關シ第二十二條ノ規定ニ異ル慣習アルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケ本令施行後二年內其ノ慣習ニ依リ支拂期ヲ延長セサル限度ニ於テ支拂期ヲ定ムルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第四條 尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ使用スル場合ニ於テハ工業主ハ週滯ナク就業ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ

第五條 附則第三條第一項ノ工業主ハ本令施行ノ日ヨリ四月以內ハ第二十二條、第二十五條及前條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

附則第三條第一項ノ工業主職工ノ貯蓄金ヲ引續キ管理シ又ハ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ引續キ使用スル場合ニ於テ前項ノ期間內ニ第二十五條又ハ前條ノ認可ヲ申請シタルトキハ之ニ對スル行政處分アル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

前項ノ規定ハ第一項ノ期間內ニ附則第三條第二項ノ許可ヲ申請シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 本令中十六歳トアルハ本令施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

官房第四三六六號ノ二

昭和十一年九月十七日

法制局長官殿

海軍次



(本田納)

工場法施行令中改正案ニ關スル意見送付

八月二十九日發勞第七六號ヲ以テ社會局長官ヨリ照會有之候首題ニ關スル當省意見左記ノ通ニ有之候

記

第十條中遺族扶助料ノ受給者ニ關スル件

当初の報告  
主として  
一、以て  
之、せ、候  
此、の、由、り、に  
止、ま、る、に、お、し、ま、す  
不、得、に、お、し、ま、す、と、し、ま、す

海軍

(本田納)

配偶者タルノ事實アリト認ムベキ者ハ民法所定ノ届出未了ノ場合ニ  
テモ之ヲ配偶者ト看做シ遺族扶助金ノ受給者タラシムル改正案ナル  
ガ配偶者タルノ事實認定ハ極メテ困難ナル場合アルノミナラズ動モ  
スレバ之ガ爲我國傳統ノ醇風美俗ヲ害スルガ如キ事態誘致ノ虞ナシ  
トセズ故ニ配偶者タルノ事實認定方ニ關シテハ紛議ヲ惹起セザル様  
豫メ一定ノ準則ヲ設ケ統制ノ必要アリト認ム尙恩給法上ノ扱振トノ  
權衡モアリ彼此不都合無之様慎重考究ヲ希望ス

(終)

ラシムルモノテアル 期ウ云フヤウナ者 人民ノニゲシユマツク 嗜好マデガ「コント」  
立案サ 其後 モアラ 故ニ是等ヲ打ッテ一丸トシテ行クコトハ、帝 八百位シカナカラウガ 大キナノ八十位

# 次下参考

昭和十一年十一月

工場法施行令及労働者災害扶助法施行令改正理由

工場法施行令及労働者災害扶助法施行令改正理由

労働者扶助ノ要ハ災害ヲ蒙リタル労働者及其ノ遺族ノ救済ニ在リ 然ル  
ニ現行工場法施行令及労働者災害扶助法施行令ノ規定ハ之ガ救済ニ充分  
ナル扶助料ヲ支給セザルノ憾アリ  
依ツテ之ガ改正ヲ行ヒ扶助料ノ増額ヲ圖ルト共ニ其ノ支給方法ノ整備ヲ  
爲サントス

第一、障害扶助料、遺族扶助料及打切扶助料ニ付各々最低金額ヲ設クルコ

ト  
現行法ハ障害扶助料、遺族扶助料及打切扶助料ニ付一定金額主義ヲ採ラズシテ當該労働者ノ賃金ヲ標準トシテ其ノ何日分ト定メタリ。從ツテ賃金極メテ低額ナル労働者ニ在リテハ其ノ遺族扶助料僅ニ百圓ニ滿タザルモノアル状態ニシテ扶助ノ目的ヲ達シ得ザルヲ以テ男八十錢女五十錢ノ程度ヲ以テ障害扶助料、遺族扶助料及打切扶助料ニ付最低金額ヲ設クルコトトセリ最低金額ヲ定ムルニ男八十錢女五十錢ヲ以テ標準トシタルハ労働者災害扶助責任保險法適用ノ土木建築工事ニ使用セララル労働者

ノ標準賃金ハ男一圓女六十錢ナルヲ以テ右標準賃金ノ約二割ヲ減ジタルモノナリ。

現在葬祭料ニ付テハ賃金三十日分ナルモ其ノ金額三十圓ニ滿チザルトキハ三十圓トスル旨ノ規定アリ。

第三障害扶助料及遺族扶助料ヲ増額スルコト

工場其ノ他ニ於ケル災害ハ近年著シク増加ノ傾向ニ在リ。

然ルニ産業災害ノ犠牲トナリタル労働者ニ對スル障害扶助料及遺族扶助料ハ現在低額ニシテ労働者及其ノ遺族ニ對スル扶助ノ目的ヲ達スルニ充分ナラザルモノアリ之ガ引上ゲノ要切ナルモノアルモ他方産業

負擔ノ加重ヲ考慮セザルベカラズ

依ツテ今回扶助法規ヲ改正シ扶助ノ程度ヲ可及的ニ引上げ以テ労働者ノ保護ヲ圖ルト共ニ經濟上ノ影響ヲ考慮シ増額ヲ適當ノ程度ニ止ムルコトトセリ

第三工場ニ於テ各扶助料ノ額ヲ定ムルニ付賃金ノ「何日分以上」又ハ「百分ノ何十以上」トシタルヲ「以上」ヲ削リ賃金ノ「何日分」又ハ「百分ノ何十」トスルコト

現行工場法施行令ハ休業扶助料、障害扶助料、遺族扶助料、葬祭料及打切扶助料ノ金額ヲ定ムルニ付各々賃金ノ「何日分以上」又ハ「百分



ノ何十以上」ト規定シタルガ「以上」ノ意義ニ關シ疑義ヲ生ジ扶助ノ迅速ヲ期シ難キヲ以テ今回扶助料ノ金額ヲ増加スルト共ニ「以上」ヲ削除シ以テ扶助關係ヲ明確ナラシメソノ迅速ナル解決ヲ期スルコトトセリ。

第四 工業主及職工ノ出捐スル共済組合ニ關スル規定ヲ設クルコト

昭和十年法律第十九號工場法中改正法律ハ工場法ニ基ク工業主ノ扶助責任ト民法上ノ損害賠償責任トノ關係ニ付規定ヲ設ケ（第十五條ノ二）、工業主ガ工場法ニ基キ扶助ヲ爲シタルトキハ、工業主ハ其ノ扶助ノ償額ノ限度ニ於テ民法ノ規定ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免レ、又工業主及職

工ノ出捐スル共済組合ガ勅令ノ定ムル所ニ依リ工業主ヲシテ扶助ヲ爲  
スヲ要セザラシムルガ如キ給付ヲ爲シタルトキハ、工業主ハ其ノ給付  
ノ價額ノ限度ニ於テ民法ノ規定ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ルルコトトシ  
以テ工業主ヲシテ同一ノ原因ニ付二重ノ負擔ヲ負ハシメザルコトトセ  
リ  
而シテ共済組合ガ如何ナル給付ヲ爲シタルトキ工業主ガ扶助ヲ爲スヲ  
要セザルカヲ勅令ノ規定ニ委任シタルヲ以テ工場法施行令ニ新ニ規定  
ヲ設ケ「工業主豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ工業主及職工ノ  
出捐スル共済組合ノ爲シタル給付ノ限度ニ於テ之ニ相當スル本令ノ扶

助ヲ爲スコトヲ要セザルコトトセリ。

第五規定ノ整備統一ヲ行フコト

工場法施行令及労働者災害扶助法施行令ニ依ル扶助ノ内容ヲ合理的ナ  
ラシムルタメ休業扶助料、障害扶助料及歸郷旅費ニ付規定ノ整備統一  
ヲ行ハントス。

昭和十一年十一月

傭人扶助令改正理由

### 傭人扶助令改正理由

工場法施行令及労働者災害扶助法施行令ノ改正ニ伴ヒ官立工場及事業場ニ於ケル職工、労働者及傭人ノ扶助ニ付テモ權衡ヲ保タシムルノ必要アリ依ツテ傭人扶助令ヲ左ノ如ク改正セントス

第一、障害扶助料、遺族扶助料及打切扶助料ニ付各々最低金額ヲ設クルコト

現行法ハ障害扶助料、遺族扶助料及打切扶助料ニ付一定金額主義ヲ採ラズシテ當該労働者ノ賃金ヲ標準トシテ其ノ何日分以上何日分以下ト定メタリ。従ツテ賃金極メテ低額ナル労働者ニ在リテハ其ノ遺族扶助料モ亦僅少ニシテ扶助ノ目的ヲ達シ得ザルガ如キ場合アルヲ以テ男八

十錢女五十錢ノ程度ヲ以テ障害扶助料、遺族扶助料及打切扶助料ニ付  
最低金額ヲ設クルコトトセリ

### 第三遺族扶助料ヲ増額スルコト

官立工場其ノ他ニ於ケル災害ハ近年増加ノ傾向ニ在リ。然ルニ災害ノ  
犠牲トナリタル労働者ノ遺族ニ對シ支給スル遺族扶助料ハ現在低額ニ  
シテ遺族救済ノ目的ヲ達スルニ充分ナラザルモノアリ。  
依ツテ今回遺族扶助料ノ金額ノ最低限度ヲ賃金三百六十日分ヨリ賃金四  
百日分ニ引上げ以テ労働者ノ遺族ノ保護ヲ圖ルト共ニ財政上ノ影響ヲ  
考慮シ増額ヲ適當ノ程度ニ止ムルコトトセリ

### 第三休業扶助料ヲ合理的ナラムコト

現在同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發スル疾病ニ付休業百八十日迄ハ一日ニ付賃金日額百分ノ六十支給百八十日ヲ超ユルトキハ百分ノ四十分ナリ居レルモ、休業扶助料ハ其ノ支給百八十日ヲ超ヘタルニ因リ之ヲ減額スベキ理由存セザルヲ以テ支給百八十日ヲ超ユルモ百分ノ四十二減額セズ百分ノ六十ヲ支給スルコトトスルト共ニ、労働者ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキトキハ百分ノ二十ニ減ズルコトトシ休業扶助料ヲ合理的ナラシメントス

昭和十一年十一月

工場法施行令改正要綱



工場法施行令改正要綱

一、休業扶助料

工場ニ於ケル休業扶助料ハ現在標準賃金ノ百分ノ六十以上ニシテソノ支給百八十日ヲ超ユルトキハ標準賃金ノ百分ノ四十迄減ジ得ルコトトナリ居レルモ之ヲ

(一)支給期間ノ如何ニ拘ラズ標準賃金ノ百分ノ六十トスルコト

参照 工場法施行令第六條

労働者災害扶助法施行令第五條

(二)職工ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ収入ニ依リ生計ヲ維持ス

労働者災害扶助法施行令第六條ノ百八ノ二十四ノ五

ル者ナキトキハ標準賃金ノ百分ノ二十トスルコト

参照 工場法施行令第六條

労働者災害扶助法施行令第五條

## 二、障害扶助料

### (一) 障害等級改正

從來抽象的ニ四號ニ分チ居リタル障害等級ヲ労働者災害扶助法ノ例ニ依リ十四級ニ具體的ニ區分シ其ノ最高級ヲ標準賃金ノ六百日分最低級ヲ標準賃金ノ二十日分トスルコト

(二) 從來ノ勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ標準賃金ノ百八十日分ヲ下

ルコトヲ得ザル旨ノ規定ヲ設クルコト

(三) 既ニ身体障害ヲ存スル者ガ負傷又ハ疾病ニ依リ同一部位ニ付障害ノ程度ヲ加重シタル場合ノ規定ヲ労働者災害扶助法ト同様ニ設クルコト

参照 労働者災害扶助法施行令第

六條第五項

(四) 本人ノ承諾アリタルトキハ雇傭期間中障害扶助料ノ支給ヲ延期シ得

ルコトトスルコト

参照 労働者災害扶助法施行令第

十條第二項

### 三、遺族扶助料

(一) 遺族扶助料ノ額ハ現在標準賃金ノ三百六十日分以上ナルヲ標準賃金ノ四百日分トスルコト

(参照 工場法施行令第八條)

### 四、歸郷旅費

障害ノ程度ヲ労働者災害扶助法ノ例ニ依リ十四級ニ具体的ニ區分スルト共ニ障害ノ程度 第八級(賃金百八十日分)以上ニ該當スルモノニ必要ナル<sup>歸郷</sup>旅費ヲ支給スルコトトスルコト

(参照 工場法施行令第二十七條第一項  
労働者災害扶助法施行令第十二條)

五 打切扶助料、遺族扶助料及障害扶助料ニ付各々最低金額ヲ定ムルコト

(一) 打切扶助料及遺族扶助料

扶助料額 最低金額

標準賃金 男子 女子

打切扶助料 五百四十日分 四百三十圓 二百七十圓

遺族扶助料 四百日分 三百二十圓 二百圓

(二) 障害扶助料

標準賃金 最低金額

日分 男子 女子

第一級 六〇〇 四八〇 三〇〇

六各扶助料ノ額ニ付セラレタル「以上」ヲ削ルコト

第 二 級	第 三 級	第 四 級	第 五 級	第 六 級	第 七 級	第 八 級	第 九 級	第 十 級	第 十 一 級	第 十 二 級	第 十 三 級	第 十 四 級
五三〇	四七〇	四一〇	三五〇	三〇〇	二五〇	二〇〇	一五〇	一二〇	九〇	六〇	四〇	二〇
四三〇	三八〇	三三〇	二八〇	二四〇	二〇〇	一六〇	一二〇	九五	七〇	五〇	三〇	一五
二七〇	二四〇	二一〇	一八〇	一五〇	一二五	一〇〇	七五	六〇	四五	三〇	二〇	一〇

現在工場ニ於テハ各扶助料ノ額ヲ定ムルニ付標準賃金ノ「何日分以上」  
又ハ「百分ノ何十以上」トスルヲ「以上」ヲ削リ標準賃金ノ「何日分」  
又ハ「百分ノ何十」トスル扶助關係ヲ明瞭ナラシメソノ迅速ナル解決ヲ期  
スルコト

十三號

参照 工場法施行令第六條第七條

第八條第九條及第十四條

七 共済組合ニ關スル規定ヲ設クルコト

工業主豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ工業主及職工ノ出捐スル  
共濟組合ノ爲シタル給付ノ限度ニ於テ之ニ相當スル本令ノ扶助ヲ爲ス  
コトヲ要セザル旨ノ規定ヲ設クルコト

参照 労働者災害扶助法施行令第

十三條

又ハ「百〇ノ百十」ノ...  
又ハ「百〇ノ百十」ノ...  
又ハ「百〇ノ百十」ノ...



工場法施行令中改正勅令案ト現行勅令トノ對照

社  
會  
局

規格 B. 5.

工場法施行令中改正勅令案ト現行勅令トノ對照

疊書ハ現行法

一一一ハ現行法中改正又ハ削除スベキモノ  
朱書ハ改正案

第六條 職工療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ  
 受ケサルトキハ工業主ハ職工ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六  
 十以上ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ 但シ同一ノ疾病又ハ負傷  
 及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ支給百八十日ヲ超エタルト  
 キハ其ノ後ノ支給額ヲ一日ニ付賃金百分ノ四十迄ニ減スルコ  
 トヲ得

職工ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ

維持スル者ナキハ休養扶助料ハ賃金百分ノ二十トス

第七條

職工ノ負傷又ハ疾病ニ罹リテ各該職工ノ業務ニ支

障スルハ該職工ノ業務ニ支障スル程度ノ別ニ依リテ

給スル手当ニシテ但シ該職工ノ業務ニ支障スル程度ノ別ニ依

リテ給スル額ハ該職工ノ業務ニ支障スル程度ノ別ニ依

リテ給スル額ハ該職工ノ業務ニ支障スル程度ノ別ニ依

リテ給スル額ハ該職工ノ業務ニ支障スル程度ノ別ニ依

リテ給スル額ハ該職工ノ業務ニ支障スル程度ノ別ニ依

リテ給スル額ハ該職工ノ業務ニ支障スル程度ノ別ニ依

リテ給スル額ハ該職工ノ業務ニ支障スル程度ノ別ニ依

リテ給スル額ハ該職工ノ業務ニ支障スル程度ノ別ニ依

社會局

左ニ掲グル場合ニ於テハ<sup>前</sup>第二項ノ規定ニ依ル等級ヲ左ノ如ク  
 線<sup>四</sup>身<sup>上</sup>体<sup>グ</sup>ヲ<sup>但</sup>傷<sup>シ</sup>害<sup>シ</sup>其<sup>ノ</sup>舊<sup>ニ</sup>復<sup>ス</sup>ル<sup>コ</sup>ト<sup>ノ</sup>能<sup>ハ</sup>ス<sup>ト</sup>引<sup>續</sup>キ<sup>テ</sup>來<sup>ル</sup>ノ<sup>勞</sup>務<sup>ニ</sup>  
 服<sup>ス</sup>ル<sup>コ</sup>ト<sup>ヲ</sup>得<sup>ル</sup>モ<sup>ハ</sup>金<sup>額</sup>ハ<sup>各</sup>身<sup>體</sup>障<sup>害</sup>ノ<sup>該</sup>當<sup>ス</sup>ル<sup>額</sup>  
 實<sup>金</sup>四<sup>十</sup>日<sup>分</sup>以<sup>上</sup>

等級ニ依ル障害扶助料ノ金額ヲ合算シタル額ヲ超ユルコトヲ  
 得ズ

一、 第十三級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 一級

二、 第八級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 二級

三、 第五級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 三級

別表ニ掲グルモノ以外ノ身體障害ヲ存スル者ニ付テハ障害ノ  
 程度ニ應ジ別表ニ掲グル身體障害ニ準ジ障害扶助料ヲ支給ス  
 ベシ